誰のどんな動作か、本文へ戻って分ける

敬語だけで主語を決めてよい？

「殿、文を読み給ふ。」と「童、殿に文を奉る。」を比べます。

読む人と差し上げる人、敬意の向かう人は同じでしょうか。

二つの文の人と動作を、線や言葉で整理する

五つの欄を混ぜない

動作主：誰が、その動作をするか。

受け手：物や行為を受け取るのは誰か。

話し手· 聞き手：会話の内と外を分けます。

敬意の向かう先：尊敬· 謙譲· 丁寧の働きと本文を対応させます。

このボードの語句の支え

給ふ（たまふ）· のたまふ· おはします：動作主を敬う表現。

奉る（たてまつる）· 申す· 申し上ぐ：行為の相手を立てる表現。

侍り· 候ふ：本文のこの用法では、会話の聞き手への丁寧を表します。

分からない語と、講師に確かめた読み

説明用の本文A：花を渡す人と受け取る人

本文A（教材用に作った文章）

夕暮れに、殿は庭に出で給ふ。童、白き花を一枝折りて、殿に奉る。殿、「この花は、いづこに咲きたりしぞ。」とのたまふ。

語句の支え

出づ（いづ）― 出る。一枝（ひとえだ）。

いづこ―どこ。咲きたりし―咲いていた。

この本文から、童が花を折った気持ちまでは決めません。

動作と人物を指し、根拠を自分の言葉で説明する

根拠と人物関係の対応

「殿は庭に出で給ふ」：出る人は殿。給ふは殿への尊敬。

「童…殿に奉る」：差し上げる人は童、受け取る人は殿。奉るは殿を立てます。

「殿…とのたまふ」：話し手は殿。花の場所を尋ねています。

敬意の向かう先と動作主が違う例を示す

本文B：人物関係を根拠とともに説明する

C1. 本文Bの「読み給ふ」と「申し上ぐ」について、それぞれの動作主と、敬意の向かう人物を整理してください。根拠となる本文の言葉を示してください。

解答・理由を書く

C2. 本文Bの二つの会話を、それぞれ誰が誰に話したか示し、使ひが門の外にいることと、待つよう指示することを分けて現代語で説明してください。本文にない理由や気持ちは加えないでください。

解答・理由を書く

本文B（教材用に作った文章）

姫君は、文を読み給ふ。女房、戸を開けて、「使ひは、門の外に候ふ。」と申し上ぐ。姫君、「しばし待たせよ。」とのたまふ。

語句の支え

文（ふみ）— 手紙。女房（にょうぼう）—ここでは仕える女性。

使ひ（つかひ）— 使者。候ふ（さぶらふ）。しばし—しばらく。

動作主・相手・会話・敬意を分けて書く

本文C：人物関係を根拠とともに説明する

C3. 本文Cの「とのたまふ」の動作主は宮でしょうか、僧でしょうか。会話の前後の言葉を示し、敬語だけで人物を決めてよいか説明してください。

解答・理由を書く

C4. 本文Cの「渡し侍りぬ」について、文を渡した人、受け取った人、この会話を聞く人を分けてください。分けた根拠を本文から示してください。

解答・理由を書く

本文C（教材用に作った文章）

朝に、宮より文あり。僧、弟子に、「この文を里へ持て行け。」とのたまふ。弟子、文を取りて出づ。夕暮れに帰りて、「文は、里の人に渡し侍りぬ。」と申す。

語句の支え

宮（みや）—ここでは皇族の人物。僧（そう）、弟子（でし）。

宮より—宮から。持て行け—持って行け。侍りぬ—ここでは丁寧に完了を述べる。

動作主・相手・会話・敬意を分けて書く

本文D：人物関係を根拠とともに説明する

C5. 本文Dの「殿に水を奉れ」と、後の「殿に奉る」を比べてください。命じた人、実際に水を差し上げた人、水を受け取る人、奉るの敬意の向かう人を分けてください。

解答・理由を書く

C6. 本文Dの出来事を、殿・女房・童の動作が区別できるように二〜三文の現代語でまとめてください。どの言葉を根拠にしたか二か所以上示し、本文に書かれていない気持ちや理由を付け加えないでください。

解答・理由を書く

本文D（教材用に作った文章）

殿は、縁におはします。女房、童に、「殿に水を奉れ。」と言ふ。童、水を器に入れて、殿に奉る。女房は、戸を閉づ。

動作主・相手・会話・敬意を分けて書く

語句の支え

縁（えん）—縁側。おはします—いらっしゃる。

奉れ—差し上げよ。器（うつわ）。戸を閉づ—戸を閉める。